

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2016 年第 20 週
(5/16～5/22)

Gifu Infectious Diseases Weekly Report 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

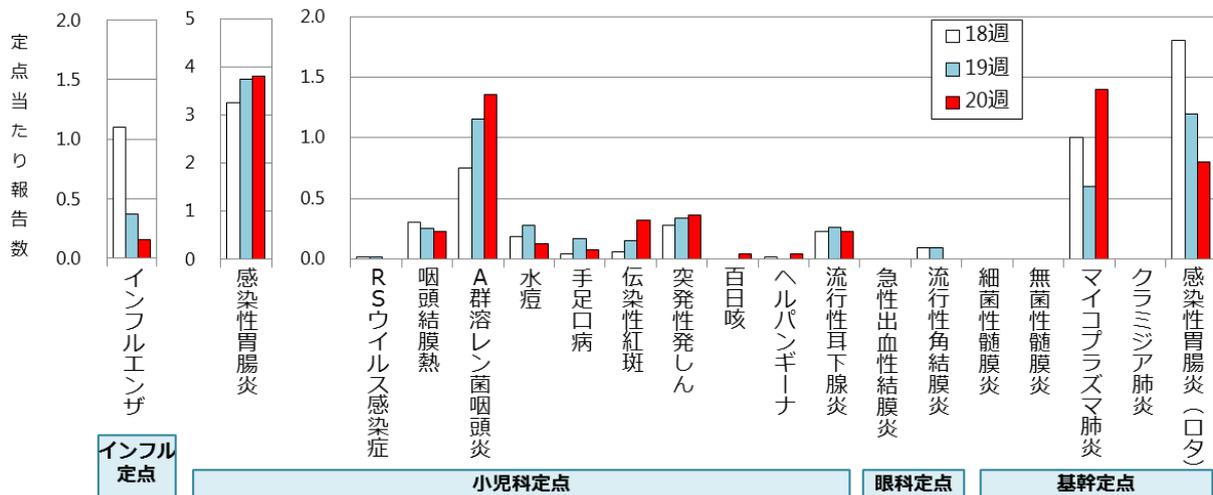
- ◇ 咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、現在のところ大きな増加はみられませんが、これから流行シーズンを迎えますので動向に注意が必要です。
- ◇ 6 月 1 日～7 日は HIV 検査普及週間です。 →トピックス

■ 定点把握対象疾患（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所（定点当たり報告数）
警報レベル	なし	—
注意報レベル	なし	—

● 直近 3 週の比較



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 9 例
- 3 類感染症：なし
- 4 類感染症：デング熱 1 例（感染地域：インドネシア）、レジオネラ症 1 例
- 5 類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 1 例、梅毒 1 例、播種性クリプトコックス症 1 例

● 2016 年累計

1 類感染症	なし		
2 類感染症	結核	156 例	
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6 例	
4 類感染症	A 型肝炎	1 例	デング熱 2 例
	つつが虫病	1 例	レジオネラ症 6 例
5 類感染症	アメーバ赤痢	2 例	侵襲性髄膜炎菌感染症 3 例
	ウイルス性肝炎	1 例	侵襲性肺炎球菌感染症 29 例
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3 例	水痘（入院例に限る） 4 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例	梅毒 10 例
	後天性免疫不全症候群	10 例	播種性クリプトコックス症 2 例

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。
 感染症発生動向調査週報（IDWR） <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■トピックス

《後天性免疫不全症候群（HIV／エイズ）》

◆ 6月1日～7日はHIV検査普及週間です

厚生労働省では、毎年6月1日～7日を「HIV検査普及週間」とし、HIV検査の普及を図る機会としています。

HIV検査は、県内の保健所で無料・匿名で受けることができます。結果が陰性の場合には即日お知らせできる迅速検査を導入しています。詳しくはこちらをご覧ください。（保健医療課 HP）

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/aids-advice.data/chirashiH280401.pdf>



HIVに感染していても、エイズ発症前に感染を早期発見できれば、適切な治療によりエイズ発症を抑えることができます。
～感染の心配がある方は、この機会にぜひ検査を受けることをおすすめします～

◆ HIV感染者・エイズ患者の国内発生状況

日本では、年間約1,500人の新規患者が報告されており、中でも男性の同性間性的接触による感染が多く報告されています。

2015年の新規患者数は1,434人（HIV感染者1,006人、エイズ患者428人）で、前年より減少したものの、2007年以降ほぼ横ばいに推移しています。2015年新規患者の86%が日本国籍の男性で、そのうち71%が同性間の性的接触により感染しています。

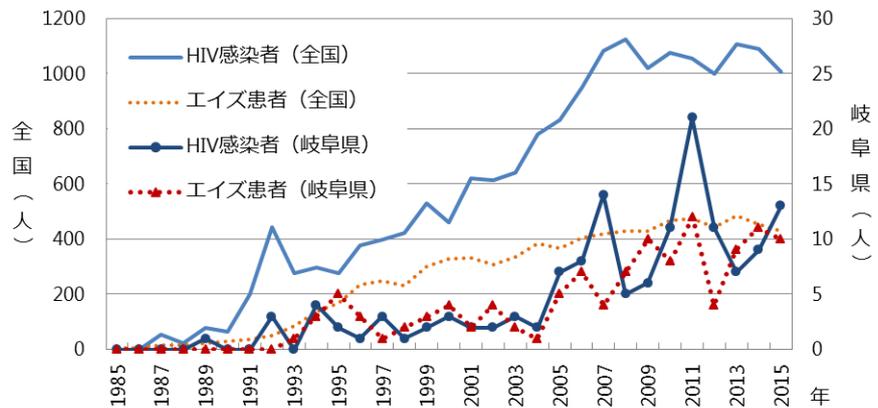
また、年齢別では、HIV感染者は20～40代、エイズ患者は30～40代が多く報告されています。

岐阜県では、2015年、23人（HIV感染者13人、エイズ患者10人）の新規患者が報告されています。すべて男性（うち日本国籍21人）で、18人が同性間の性的

接触による感染でした。また、県内では、エイズ発症をきっかけにHIV感染に気付く“いきなりエイズ”の割合が全国と比較して高くなっています。

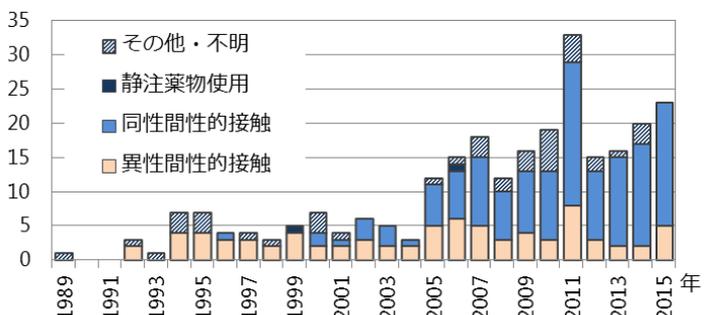
今後も引き続き、特にMSM（男性と性行為を行う男性）に対して広くHIV検査の普及を図り、HIV感染者の早期発見・早期治療によりエイズ発症者を減少させることが重要となっています。

新規HIV感染者・エイズ患者報告数年次推移



HIV感染者：初回報告時にエイズ未発症の患者
エイズ患者：初回報告時にエイズを発症している患者

感染経路別HIV感染者・AIDS患者報告数（岐阜県）



★後天性免疫不全症候群（H I V／エイズ）とは

HIV（ヒト免疫不全ウイルス：Human Immunodeficiency Virus）の感染により、免疫機能が低下した結果、感染症などの病気を発症した状態をエイズ（AIDS：Acquired Immunodeficiency Syndrome、後天性免疫不全症候群）といいます。「HIV感染＝エイズ」ではなく、HIVに感染した後、自覚症状のない状態が平均8～10年続き、徐々に免疫力が低下して様々な病気を発症し、エイズの状態になります。現在は、感染を早期に発見できれば、治療によりエイズ発症を遅らせることができます。

★感染症法における取扱い

後天性免疫不全症候群は、感染症法において5類感染症全数把握対象疾患に定められており、患者を診断した医師は保健所に届け出なければなりません。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/kansenshouhou-kijun.html>（保健医療課 HP）

岐阜県感染症情報センターHP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/>